

巻頭言

函館大学 学長
野 又 淳 司

この度、「函館大学論究第47輯」が、開学50周年記念号として発刊されますことに対し、心からお慶び申し上げます。執筆者各位ならびに編集に当たられた方々に対し、心より感謝申し上げます。

函館大学論究は、1965年に第1輯が刊行されて以来、本学教員を中心として執筆され、関係機関のご高覧に供してきたところであります。本年は北海道新幹線の開業という節目にあたりますが、函館大学論究第1輯の発刊の辞を見ましたところ、青函トンネルの着工に言及されておりました。当初より新幹線規格として設計された青函トンネルは1963年に着工し、およそ四半世紀の工期を経て1988年に開通、さらに四半世紀を経て2016年に新幹線が開業するという、大事業の完成を迎えているのであります。

50年という時間は、社会の様相を大きく変えています。函館大学は地域の産業の発展を使命としており、その姿勢は変わることなく受け継がれています。近年、函館に限らず、地方都市の厳しい現状を見るにつけ、地域の発展において教育・研究の振興は不可欠であるとの信念をより一層強く感じます。

これからの教育は、知識・技能だけではなく、主体性ある態度の涵養が求められています。主体性ある態度の持ち主だけが、表面的な理解ではなく本質的で深い理解に到達し、人に教える立場になり、人類の文化を継承していくことができるのです。人間そのものと、人と人がつくる社会には、普遍的なものと私は考えますし、人文・社会科学の精神はここにあります。教育・研究という営みはその典型例でありましょう。

結びになりますが、函館大学の新たな半世紀に向け、関係者の皆様のご活躍を心から祈念し、発刊の辞といたします。